

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 元 年 12 月 10 日

事業所名 こどもプラス唐津教室

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆で遊ぶ部屋、静かに宿題をする部屋と室内環境を有効に使うようにしている。</li> <li>・利用児童が多い場合の運動などの活動時は職員の見守りも増やしている。</li> </ul>
	2	職員の配置数は適切である	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数により考慮して配置している。勤務変更の際には必ず見直している。</li> <li>・余裕が無い状態なので、勤務形態と人数を見直したい。</li> </ul>
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内には段差がない。現在はバリアフリーではないが、今後必要とする児童の受け入れを考慮すれば、必要になると思う。</li> </ul>
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のミーティングや定期的なモニタリングを行っている。その中で支援についての報告、振り返りをし、全職員の参画を図っている。</li> </ul>
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価アンケートを実施し、結果には全職員が目を通し、振り返りをしている。意見に対する改善点などもホームページに掲載し、見てもらえるようにしている。</li> </ul>
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページで公開しており、書面でも保護者に配布している。</li> </ul>
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談員が療育の様子を見て、アドバイスをしてくださる事があるが、その評価結果を業務改善に活かしていないので、今後そういった助言を取り入れて活かしていければ良いと思う。</li> </ul>
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の本部研修に加え、外部での研修にも積極的に参加している。</li> </ul>
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントをもとに情報共有を行い、対象児に必要な支援内容を話し合っ計画を立てていく。</li> <li>・保護者のニーズに応えることも重要だが、全てを容認するのではなく、相互の協力や理解を目指している。</li> </ul>
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントシートを使い、保護者に記入してもらっている。利用計画を立案する際はそれを見ながら保護者に聞き取りを行っている。標準化していると思う。</li> </ul>
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・月ごとに担当を決め、担当職員を中心に全員でミーティングをし細やかな計画の立案に努めている。</li> </ul>
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の特性、発達段階などを考慮し、運動の担当を交代で回すことで固定化しないように工夫している。</li> </ul>
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な経験ができるようにプログラムを考えている。平日にはできないようなことを休日に設定して児童の興味、関心を幅広く持てるようにしている。</li> </ul>
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ集団活動をに参加させるようにしているが、状況によって臨機応変に個別活動に切り替える。</li> <li>・曜日によって個別活動と集団活動の時間のバランスを取っている。</li> </ul>
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のミーティングの中で支援内容を検討する。安全な送迎と、運動プログラムの実践が出来るように全職員で打ち合わせをしている。</li> </ul>

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	4		・送迎が終わった後にその日の振り返りを行っている。当日にできなかった場合は必ず翌日に行い、記録を残している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1		・その日の関わりが深かった職員が記録を取り、職員間での共有をし、ミーティングの際に活用している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	2		・3ヶ月毎にモニタリングを行う。その都度、支援内容の見直しをし、検証、改善に努めている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	2	1	・ガイドラインに出来るだけ沿った活動になるようにしている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1		・児童発達支援管理責任者が出席している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	1		・毎月、学校に教室だよりを配布し、行事等の予定を共有したり、担任の先生と直接会って話をする、不明な点は電話連絡をして情報交換をする等、学校との連携は密にできている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	1	5	・現在は該当する児童がいないが、常に視野に入れておくべきである。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2	3	・相談支援事業所と情報共有をしている。見学に行くことも考慮している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		2	5	・卒業を控えている児童がいないが、今後のためにも情報を収集し、さらにそれを利用者に提供できれば、より良い支援に繋がっていくと思う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4	1	・地域のこども部会に参加し情報共有を行っている。こういった連携を通じた助言や研修により知識の向上が望めると思う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2		5	・現在は実績が無い状態なので、今後は企画、提案していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	4	2	・スケジュールの都合が合えば参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1		・連絡ノートやメールといった文面での伝達に加え、送迎時に口頭でも様子を伝え、また保護者からの話も聞き取るようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1	2	・ペアレント・トレーニングとまでは至らないが、保護者への助言や児童の様子を細かく伝達するようにしている。 ・利用予約等の管理の不備が無いように、保護者との連絡を密にし、サポート体制を整えている。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	・見学、契約時に説明を行い、質問や気なる事があれば随時対応をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	・必要があれば時間外でも対応し、職員同士で共有してミーティングを行い、適切な助言と支援ができるようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		2	5	・現在はできていないが、今後企画していくようにはしている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	・苦情があった場合はすぐに対応し、全職員で共有、改善に努める。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			・毎月の活動風景を教室通信として保護者、学校、関連機関に配布し、さらにホームページに掲載している。
	35	個人情報に十分注意している	7			・破棄する場合はシュレッダーにかけている。教室便りに載せる写真も、顔が分かるものは使用していない。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			・保護者の方とは面談を定期的に行い、送迎時にも話をしている。子どもには、一人ひとりの考えや気持ちを汲み取った対応を心掛けている
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	3	・自主企画の行事に招待した実績は無いが、地域行事に参加したことがある。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	3		・マニュアルはあるが、職員までの周知に留まっているので、保護者にも周知を広げていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			・年に2回、必ず避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			・定期的な研修を行い、職員間でも意見交換をし、防止に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	4	1	・身体拘束を行う可能性のあるケースは限られているので、状況と支援方法を話し合う必要がある。現在、該当する児童はいないが、職員が対応できるよう視野に含めた支援をしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	3		・アセスメントに記載のあるものについては周知を徹底して対応している。おやつ提供には特に配慮している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			・ヒヤリハットは毎月必ずいくつかの事例を作成するので、共通理解と改善を全職員のミーティングにて話し合う。